

折に触れ 四字熟語

NO. 106 〔四鳥別離〕 しちょう べつり

< 意味 > 親子の悲しい別れ。巣立つ四羽のひな鳥を見送る親鳥の別れの悲しみの意から。類義の熟語に「四鳥之別（しちょうのわかれ）」があります。

< 出典 > 「孔子家語」顔回

故 事： 孔子が早朝に悲鳴のような泣き声を聞き、高弟の顔回かんざんに尋ねたところ、顔回は「桓山で鳥が四羽のひな鳥を育て、巣立つとき母鳥は別れの悲しさに声をあげて鳴き送ると申しますが、あの声もその母鳥の鳴き声と同じです」と答えた。果たして父親が死んで、子を売らなければならなくなった母親の泣き叫ぶ声であったという故事から。

語 釈： 「四鳥」は四羽のひな鳥。

一 言： 別れシリーズ その2

今回の熟語の別れの理由とは少し違いますが、春は卒業、転校、転勤などにもなう「別れ」の季節でもあります。もうすっかり昔話になってしまいましたが、サラリーマンであった私は、この時期に何度かの転勤により別れと出会いをしてきました。しかし、自分のことだけにかまけて、家族が体験したであろう気持ちの動揺、負担まで配慮していたのかどうか反省を込めて懐かしく思い出します。

参照文献： 三省堂「四字熟語辞典」